

# きほく川柳会

一票の頼りの綱に声囁らす

人生を黙して語る白い髪

年ごとに加速度がつくカレンダー

結婚も葬儀も男同じ服

服乱れ心の乱れ世の乱れ

簡単に反対するが策はない

簡単なことかできない歳となる

簡単に開かずの間には寄せつけず

年金で防戦ばかり強いられる

飛来する汚染防止の策がない

穏やかに暮らし高血圧予防

防ぐには無理です口に戸が立たず

耐えられぬ侮辱に切れた防波堤

痴呆症防ぐ秘策の恋をする

武田 浅美

吉井 興一

合田 悦子

宮川 柳酔

大野 直續

加藤 桂子

水野 貞子

浅野 琴美

渡辺 光男

栗木 一郎

宇都宮 忍

財前 溪子

宇都宮 孝

金子すすむ

おしよがつたのしいゲームうれしいな

小一 池内 麗羽

あしでけるサッカーボールとんでった

小一 山田 清也

つないでねあったかさをあじわうよ

小三 梶野 峰士

つなひきでまけてもつよくがんばるよ

小三 瀧本ななみ

手をつなぐみんな仲よくなれるんだ

小六 清原 沙耶

五時間目あくびをしたらおこられた

中二 宮川 直輝

あくびするねむたくなって夢の中

中三 渋谷 裕紀

つながった君と僕との心がね

高一 井上あんな

ハイチーズポーズを決めて写真とる

高一 清原 賢斗

イレブンで心一つでパスつなぐ

高一 梶田 健太

腕ずもう強い人達腕太い

高二 梶田 拓也

振り向けば長い旅路の足跡が

高二 濱松 和希

照れながらつないだ手から愛あふれ

高三 鳥生 祐衣

転んでもまた起き上がる強い人

高三 渋谷 尚紀

## 竹の子川柳会

### 鬼北の足跡を辿る…【第2回】

#### 上鍵山マンガン鉱山跡

電池や製鉄に欠かせないマンガン。理科の実験で使用したりと馴染みのある鉱石ですが、かつて「関西一の名鉱山」と呼ばれたマンガン鉱山が、鬼北町上鍵山にあったことを知る人は少ないのではないのでしょうか。

上鍵山の坑道は「鍵山坑」で、昭和12年、採掘権が神戸に本社を持つ桑正株式会社に移り、一宝鉱山として城川町にあった事業所とともに本格採掘に入りました。鉱山全体で3000人、上鍵山の現場だけでも50人前後の従業員が従事し、戦時中には国の重要鉱山の指定も受けています。出鉱量のピークは昭和26年頃で、当時最新の削岩機を導入し、月量3000トンを記録しました。特に鍵山坑の鉱石は含有量平均70割(高いもので90割)という高品質で、質・量とも一時期は関西一を誇っていました。これが「名鉱山」と呼ばれた由縁であり、関西などから多くの鉱山関係者が視察に訪れました。

しかし、表層部を掘り尽くし、深部にいくほど作業は困難になるなど、次第に採算ベースに乗らなくなり、昭和38年、本社の倒産とともに操業停止。明治の頃から続いたこの鉱山の歴史に幕を下ろしました。

従業員として、戦後から閉山まで鉱山を見守ってきた上鍵山在住の兵頭要さんは、当時をこう振り返ります。「貧しかった時代を乗り越えられたのもあの鉱山のおかげ。鉱山がなければ今の生活はなかったかもしれん」。

山間地域の人々の雇用を支えた「名鉱山」の栄枯盛衰を知る人も今やごく僅かとなっています。



上鍵山地区の山中にあるマンガン鉱山跡。社宅跡の石垣が当時を偲ばせる